

**なぜ神はサタンの攻撃を許されるのか？ (新約聖書：第一 テサロニケ人への手紙 2章13~20節)**

[https://www.youtube.com/watch?v=7Hk49\\_i-eWg](https://www.youtube.com/watch?v=7Hk49_i-eWg)

今日の箇所が開けたら、出来ればお立ちになって、私が読むのについて来てください。難しければ座ったままで大丈夫です。使徒パウロはテサロニケの教会に手紙を書いています。聖霊によってこう書いています。13節から。

**第一 テサロニケ人への手紙 2**

**13 「こういうわけで、私たちもまた、絶えず神に感謝しています。」**

感謝祭後の最初の日曜日に、なんと素晴らしいスタートでしょうか。

「私たちもまた、絶えず神に感謝しています」そして、その理由が書かれています。

**1 テサロニケ2**

**13 あなたが私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてでなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています。**

**14 兄弟たち。あなたがたはユダヤの、キリスト・イエスにある神の諸教会に倣う者となりました。**

**彼らがユダヤ人たちに苦しめられたように、あなたがたも自分の同胞に苦しめられたからです。**

**15 ユダヤ人たちは、主であるイエスと預言者たちを殺し、私たちを迫害し、神に喜ばれることをせず、すべての人と対立しています。**

パウロがテサロニケでこの教会を始めていた時に、テサロニケから追い出されたことへの言及です。

ある人達は、彼が町から追い出されるまで、たったの3週間しかなかったと言います。

**16 彼らは、異邦人たちが救われるように私たちが語るのを妨げ、こうしていつも、自分たちの罪が満ちるようにしているのです。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで、極みに達しています。**

**17 兄弟たち、私たちは、しばらくの間、あなたがたから引き離されてきました。そして補足的にこう書いてあります。といっても、顔を見ないだけで、心が離れていたわけではありません。そのため、あなたがたの顔を見たいと、なおいっそう切望しました。**

**18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。私パウロは何度も行こうとしました。しかし... 一興味深いです— サタンが私たちを妨げたのです。**

ええ？！

**19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのは、いったいだれでしょうか。あなたがたではありませんか。**

**20 あなたがたこそ私たちの栄光であり、喜びなのです。**

共に祈りましょう。主よ、ありがとうございます。本当に感謝します。主よ、私たちは今日あなたを礼拝し、あなたを知るためにここにいます。あなたに近づき、あなたと交わるために。

主よ、私たちが共に集まるこの時を祝福してください。私たちはイエスの名において祈ります。

アーメン。どうぞお座り下さい。ありがとうございます。

今日は、霊的な戦いに関する非常に難しいトピックについてお話したいと思います。具体的には、悪魔の攻撃について。すなわち、なぜ神は悪魔や悪霊たちがこの墮落した世界にいる神の民である私たちを攻撃することをしばしば許すのか？ 私たちは常に、天国のこちら側では、車に詳しい私が「ビッグ3」と呼んでいるものを取り扱っています。世界、肉、そして悪魔。神は、悪魔が私たちを攻撃することを許される時があります。それが今日私が話したいことです。

さて、敵は、神からの許可を得ない限り、私たちの頭の毛に触れることすら出来ないことを理解することは重要で

す。神は彼に、かつて私の頭にあった多くの毛に触れる許可を与えたようです。これが私が過度に埋め合わせようとしている理由です。私の問題はこのくらいにして...

しかし、敵は最初に神から許可を得ない限り、私たちに対して絶対に「何も」できません。聞いてください。最終的にそれが、私たちの善と神の栄光のためにならない限り、神は悪魔に、私たちに何かをする許可を決して与えません。それが私たちのためにならないなら、とんでもない！それは起こるこたあない。これが適切な英語ではないことは分かっています。私にメールしないでください。

もしそれが、神の栄光と私たちのためになるなら、神は敵に攻撃する許可を与えます。彼が使徒パウロにここでしたように、妨げることも許可されるのです。旧約聖書のヨブの場合のような、聖書の記述に目を向けるだけで十分です。木曜日の夜にここにいた皆さんと、私達は聖書を読み進めていて、私たちはヨブ記を読みました。なんとというか...、「強烈」という言葉を使いたいです。ヨブ記を通しての学びは、非常に濃いものでした。読み始めてすぐ、ヨブ記の冒頭には、サタンが「**地を歩き巡り、歩き回って来た**」(ヨブ記1:7)と書かれていて、彼はまだ、明らかに天国にアクセスできるようなのです。ちなみに、これが、永遠に天国が新しくされる理由です。しかし、サタンはそこにおいて、神は彼にこう言うのです。

「お前は地を歩き回っていて...」「わたしのしもべ、ヨブに心を留めたのか？」

(サタン)「まあ、実際のところ、そうです。それが、私がここにいる理由です。」

「彼について話をしたいのです。」「私はあなたに許可を求めたいのです。」

なぜなら、神よ、お聞きください。ヨブがとても正しくて、ヨブがあなたに仕える唯一の理由は、神が彼を祝福しているからです。あなたが彼を繁栄させているからです。賭けたいですか？神が賭けをするわけではありませんが。しかし、サタンはこう言うのです。「彼はこうするに違いない...」

「もし、あなたが手を挙げたり、もしくは私に彼に対して手を出させ、」「そして、彼に敵対して、彼から奪い取らせるのなら、」「彼は面と向かってあなたを呪うに違いない。」(ヨブ記1:11)

神はこう言います。「お前の手に任せる。しかし...！お前にはこれしか出来ない。」もちろん、サタンは、神が彼に許可を与えられた、そのギリギリの線まで行きます。ヨブ記全体は、考えられない方法でヨブを攻撃するサタンについて書かれています。

それから、ペテロです。イエスとペテロがこの会話をしている福音書の記述を覚えていますか？

イエスはペテロに、「**ペテロ、サタンがあなたを麦のようにふるいにかける許可を求めています**」と言います。(ルカ22:31)

その叙述や本文にはありませんが、私にはペテロが考えていたことを想像することができます。

「あなたはサタンに許可を与えませんでしたよね、イエスさま？」—「いや、与えた。」「え?! どうして?!」「なぜなら、最後には、それはあなたのためになるから。」「そして、それは私の栄光のためになるから。」「私は彼にあなたを麦のようにふるいにかける許可を与えた。」そして、彼は見事にそうしました。繰り返しますが、ヨブと同じように、サタンは神が許可を与えられたギリギリの線まで行きました。今日の箇所では、神がサタンに許されたのは、パウロをふるいにかける事ではなく、パウロから奪うことでもなく、パウロを妨げることでした。なぜか？なぜなら、そのことによって達成されたことのためです。神にはさらに良い計画がありました。完全に網羅するものではありませんが、今日の聖書箇所は、神がサタンに私たちを妨害し、攻撃し、抑圧し、混乱させる許可を与えるのはなぜか？またそれはいつされるのか？に関する3つの理由を提示していると思います。

一つ目は、私たちを神のみ言葉と祈りに引き戻すことです。13節から16節では、使徒パウロはいくつかの異なる事実から結論を導き出しています。それは、テサロニケのクリスチャンたちの苦しみと迫害に関係しています。それは、本当にトラブルを起こそうとしていたユダヤ人から主に来ていました。

パウロをテサロニケから追い出したユダヤ人たちはです。パウロは彼らに認めています。「私は、彼らがあなたを迫害していることを知っている。」「彼らはあなたを苦しめたが、しかし、そのことがあなたがたに何をもたらしたのかが分かるか?」「そのことが、あなたがたに、神のことばをそのまま”神のことば”として受け入れることをもたらしたのです。」

皆さんも、こう思いませんか？逆境が訪れる時、サタンが攻撃し、サタンが妨げる時、それには、私たちを主に、みことばに、そして祈りに引き戻すという非常に必要な効果があると思いませんか？

これが、神が成し遂げることです。ここで、サタンがあなたへの許可を求めているとします。聖書で言われているように、彼はあなたに忍び寄っています。攻撃に最適な時間を待ち構える獅子のように。

しかし、彼は許可を得るまでは出来ません。そこで彼は神の元へ行き、伺いを立てます。

「ねえ、JDを攻撃する許可をもらえますか？」ちょっと、なぜ突然そんなに静かになるんですか？

そしてそこで、神は私を見ながらこう言うのです。「よし、やるがよい。」

「お前にそうすることができるのは、お前がそれをする時に、私は彼が何をするか知っているからだ。」

「彼は私の前にひざまずき、ひれ伏すのだ。」「賭けたいか？彼を見ていなさい。」

「ああ...、彼はみことばに浸るだろう。」「彼は祈り、」「彼は私を求め、彼は私に近づき、私も彼を近くに引き寄せる。」「どうぞ、やりなさい。」「私はお前に許可を与える。」

このように、神は、私たちの注意を引くためには、時に迫害と苦しみの両方が必要なことを知っているのです。そうでなければ良いのにと願いますが。物事がうまくいっている時、私はそれほどみことばに浸りません。私はあまり祈りません。つまり、「物事は順調に進んでいます。主よ、ありがとうございます！」しかし、逆境が襲ってくると、「主よ、私はあなたに目を向けます。」—「よろしい。」

「だから私は、あなたの注意を引き、あなたを私に引き戻すために、サタンにそれをさせたのだ。」

私は以前にも指摘し、お話ししたことを言おうと思います。それは繰り返し言うていいものだと思います。それは、迫害と苦しきは、教会を妨害しないということです。その反対は真実です。迫害と苦しみの欠如が、教会を妨害するのです。教会を成長させたいですか？教会を迫害すれば、教会は成長します。私たちは、世界の他の地域の兄弟姉妹に聞いてみればよいと思います。彼らは深刻な迫害を受けています。これは、集合的に神の教会にも当てはまり、そして、これは神の民それぞれに、個人的にも当てはまります。私は、詩篇119篇67節でダビデが語っていることを考えていました。彼が言っていることを聞いてください。

## 詩篇119

### 67 苦しみにあう前には、私は迷い出ていました。しかし今は、あなたのみことばを守ります。

主よ、あなたは苦しみをもたらさなければなりませんでした。迫害をもたらさなければなりませんでした。逆境をもたらす必要がありました。霊的な戦いをもたらさなければなりませんでした。今、あなたは私の注目を得たのです！私は勝手に我が道を行っているようなものでした。この世の心配や関心事に追われ、夢中になって。そして、あなたは敵に、私を苦しめ、私を攻撃する許可を与えました。

そして、あなたとあなたの言葉へと、私を連れ戻しました。これを言うときは気を付けたいですが、しかし、私は牧師として仕えていて... ..すこし考えさせてください... 私は今、20年以上になります。わお！ちょっとびっくりです。私は20年牧師をしています。そして、年月を重ねるにつれて、私は気づきました。気が付いてきたんですが... 私がこう言うとき、皆さんに居心地の悪い思いをさせたくないのですが、私は皆さんがそこに座っているのを見ます。そして、私には、神があなたの注目を得た時が、分かるのです。たぶん、私は本土の牧師だったときの例を使うべきでしょう。そうしましょう。その方が良いでしょう。その方が無難です。私は本土にいて、毎週毎週いつものように誰かが教会に座っていますね。彼らはこんな感じなのです。私はここにいる誰かについて話しているのではありませんよ。皆さんの中には、礼拝後に私のところに来て謝罪したことのある方たちがいます。

「牧師さん、私が居眠りをしていたのを見たならすみません。昨夜はあんまり眠れなかったんです。」

「あなたのせいではなくて、私は本当に疲れていて、本当に大変な一週間だったのです。」聞いてください。心配無用です。眠ってしまっても問題ありません。私にはそういう効果があるんです。ただし、叫ぶときは別です。その時は起こしてしまいます。しかし、それは問題ではありません。問題は、説教中に私が居眠りする場合です。それは問題です！...こんな感じです。神聖なユーモアがあるのです。

それはこんな感じで...、白目になって、頭がガクッと動いて目が覚め、そして数分後には、また眠りに落ちて行って... 繰り返しますが、誰も今日ここにいらっしゃる方の話ではありません。皆さんはとても注意深く聞いてくれています。そして、もしかしたらその週に何かが起こります。主がそれを許します。そして、その次の日曜日には、彼らはこれ（居眠り）をしていません。彼らはこんな感じで、聞くのです。...そして、「聖書を開きましょう...」—「もう、開いています！」と。「祈りましょう。」—「はい！」またはワーシップ（賛美）の中で... ..ワーシップに

ついて簡単に話しても良いですか？

もちろんです。つまり、その前の週は...♪...私はあなたにすべてを委ねます...♪（あくびをしながら）  
翌週には...、♪私はあなたにすべてを委ねます...！♪詩篇119篇の数節後の71節には、

### 詩篇119

#### 71苦しみにあったことは、わたしにとって幸せでした。

本当に?! —「ええ！よかったんです！それは神からのもので、私にとって良いことでした。」

「そして、それは神の栄光のためでした。」それが私にとって良いことであり、それが神に栄光をもたらすなら、神はそれを行なわれます。「苦しみにあったことは、私にとって幸せでした。」なぜか？

### 詩篇119

#### 71それにより、私はあなたのおきてを学びました。

「私は教訓を学ばなくてはなりません。」私は主と一緒に37年以上、この歩みをして来て、私はついに...遅くてもしないよりマシだと思いますが、私はついに、こういうところまで来ました。それは、サタンが攻撃し、逆境が襲い、苦悩が起こった時に、私の最初の反応が、——最後の手段ではありません——、「分かりました、主よ...」  
「あなたは私に何を見せたいのですか？」 「私に何を教えたいのですか？」 「あなたは私に何を見せたいのですか？」 「私に何を学ばせたいのですか？」 「明らかに、あなたはこれが起こるのを許しました。あなたが許さなければ、私の頭から髪の毛一本落ちることもないからです。」 「あなたは何も許されません。だから、これは確かに、あなたが許したから起こったことです。」 「どうして？」 「ああ、聞いてくれて嬉しいよ。」 神の応答です。「これが理由だ。」 —「わお...」 私は主について、苦しみ、霊的な戦い、逆境がなければ学べなかったことを学ぶのです。

物事がうまくいっているとき、私は学びません、繁栄の時ではなく、逆境のとき、それが私が学ぶときです。私はこのように言うのは嫌ですが、皆さんは私が言いたい事を理解していると思います。

神は問題を抱えています。神に問題があるのではありません。実際には私たちが問題なのです。そして問題とは、私たちはさまよう傾向があるということです。難しいことではありません。つまり、それは磁石で引っ張られるようなものです。この世、肉、この世の物事のことになると。私が度々考えるのは、神が私を牧師として、また教師として召命した理由は、私が神の言葉に留まることを余儀なくされるようにするためだと。彼は私がしがちな事を知っているからです。説教壇にあがらなかった先月でさえ...興味深いですよ。私の主との時間は全く新しい意味を持ちました。みことばに浸る私の時間、私の祈りの時間はとても豊かで。「主よ、私はこれが終わってほしくないのです。」

「まあ、あなたは説教壇に戻らなければならないから、これは終わらなければならない。」と主は言われました。「ああ、主よ、私はあなたとのこの時間をただただ楽しんでます。」 「あなたは私にたくさんのことを見せてくれてます。」 神は、私たちにはさまよう傾向があることを知っています。

「すべての恵みのもとに来たれ」という、あの時代を越えて知られる賛美歌についての話があります。

それは、さまようことと、道に迷うことについてです。ある作家はそれをこのように説明しました。

「少年が愛情深い父親を持たずに成長することを余儀なくされるのは、不幸な事である。それが、ロバート・ロビンソンの運命だった。彼の父親は、彼がわずか8歳のときに亡くなり、ロバートの状況をより困難にしたのは、彼の母方の祖父ロバートウィルキン、裕福な男性で、娘の貧しい結婚を認めたことが無かったため、彼は孫に相続権を与えず、わずか10シリングと6ペンスだけの財産を提供した。うら若いうちから、彼は未亡人となった母親と彼自身のために、稼ぎ手にならなければならないという苦難に耐えた。彼が年をとるにつれて、彼は有名な伝道者、ジョージ・ホイットフィールドの影響を受けた。1755年12月10日」ロビンソンは、ホイットフィールド氏が彼の説教の一つで使用した特定のフレーズを心から押し出すことは出来なかった。「ああ、聴衆よ。怒りが来る、怒りが来る」と。興味深いことに、パウロはこれをしたユダヤ人の上に注がれる怒りについて語っています。

彼は驚くほど回心し、福音を伝える者になった。最初にバプテスト教会で、次にメソジスト教会で、そして他の宗派で。ある場所では、彼の会衆の出席者は1,000人になった。残念なことに、何らかの原因不明の理由で、彼は完全に不安定で不幸になった。彼のクリスチャンの信仰と訓練は彼にとってあまり重要ではないようだった。数年後のある

時、彼は駅馬車に若い女性と同乗した。彼女は旅行の単調さを打破するために歌い始めたと言われている。彼女は何を歌ったのでしょうか？

♪すべての恵みのみもとに来たれ。あなたの恵みを歌うように私の心を整えて下さい。憐みの流れが止まることはありません。最も大きな賞賛の歌を求めます。天の燃えるような舌で歌われる。朗らかな詩を教えてください。私が据えられた山を誉めます。ああ、恵み。どれほど偉大な債務者。日々、あなたの憐みで、足かせのように、私のさまよう心を繋ぐしかありません。主よ、さまよひやすいと私は感じています。私の愛する神から離れやすいと。主よ、ここに私の心があります。掴んで封じてください。天のあなたの法廷のために封印してください。

彼女が歌を終えると、若い女性は口パーツに尋ねた。この歌についてどう思いましたか？と。彼の驚くべき返事は、「マダム、私は何年も前にその賛美歌を書いた不幸な男です。そして、もし私がそれらを持てるなら、私はなんだって引き換えにしましょう。もし、その時感じたように、今も感じる事が出来たなら。」

もしかしたら、皆さんは今日このような状況にいるかもしれません。そして、かなりつらい思いをして来られたかもしれません。神がサタンに、あなたをふるいにかける許可を与えたようにみえるかもしれません。そして、「麦のようにふるいにかけて」、あなたはこの教会に座っています。それを軽く見ないでください。それを払いのけないで下さい。それを受け入れるのです。それはあなたをご自身の元へ戻す神の方法です。こう言えるでしょうか？

神はあなたが恋しいのです。神はあなたを愛しています。神はあなたに戻って来て欲しいのです。

神は、むかしむかし、あなたが神と一緒に過ごしたような時間を求めているのです。その親密な時間を。彼は悪魔を使わなければなりません。

ところで、重要なことです。見逃さないで下さい。主よ、これを言うのを思い出させてくださって感謝します。悪魔は、神の悪魔です。「何...？」ええ、悪魔は、神の悪魔です。悪魔は神の反対ではありません。悪魔は全能ではありません。彼は遍在できず、彼は全知ではありません。神だけです。悪魔は神の反対ではありません。サタンを神に対等するものと想像するとき、私たちは大きく間違いを犯すと思います。悪魔はそうではありません！悪魔は敗北した敵です！時々...私たちは彼に大声でそう告げるといいでしょう。私はやりますよ！私はそれには臨床用語があるのを知っていますが。私はやりますよ。悪魔が私の頭に思いを入れようとする時、私はこう言います。

「やめる！」「何してるんだ！..ここから出て行け！」「お前は嘘つきだ！」「私はお前を信じない！お前は嘘つきだ！」「お前が何かを言ったり、私の頭に思いを入れたりするとき、お前は嘘をついてる！」「なぜなら、お前は偽りの父だから！」「私はお前の嘘を信じない！」「私は神の真理を信じる！」「それは真理ではない！神の真理の言葉が語っていることと一致しない！」「ここから出ていけ！」「他の誰かのところへ行け。」

私は悪魔に抵抗し、彼は逃げます。彼はそうしないといけないうのです。彼がイエスを攻撃したとき、イエスは何をしましたか？イエスは申命記を引用しました。神の言葉です。時に神は、敵が攻撃するのを許さなければなりません。なぜなら、そのことが、私たちを神のもとへ、神の言葉へと連れ戻すからです。17節と18節に2番目の理由があります。これは「大物」です。それは、私たちの道を守り、向き直させるためです。これについて説明させてください。私にとって18節は、すべての聖書の中で最も驚くべき節の一つです。その理由は、使徒パウロがテサロニケに戻るのを阻止することを、サタンが実際に許可されたということです。それは、パウロがずっと望んでいたことでした。

彼は本当に、何度も何度も行きたかったと言っています。考えるのを止めることが出来なかったと。

テサロニケに戻り、彼らがどうしているかを見たいと切望していたと。しかし、サタンがパウロを妨げ、神はサタンがパウロを妨げることを許可しました。なぜか？なぜ神はサタンにそれを許されたのでしょうか？理解できません。あなたは神がパウロが戻って、この教会の様子を見るために、その扉を確かに開いてくださると思うでしょう。神は実際にパウロを守っていたので、神はサタンが彼を妨げることを許されたのです。そして、パウロを別の方向に引き直させたのです。時には、神は私たちをより大きな試練から守るために、敵が私たちを攻撃することを許します。それについて説明する必要がありますね。弟子たちが主からガリラヤ湖へ船に乗るように言われたときを思い出してください。

イエスは彼らと向こう岸で会うと。福音書には、主の側に緊急性があったという説明があるようです。

聖書の中で、実際にそういった場面は見られませんが... 私は、主が急いでいる所を見たことは ありませんから。しかし、明らかにこの特定の時に、彼は弟子たちを船に乗せようと急いでいます。なぜか？

イエスは彼らを船に乗せたいのです。彼らが危険な生と死の嵐に入ることを知っていたから。言い換えれば、イエスは故意に彼らを嵐の中に送るのです。なぜ、そうするのですか？ イエスは彼らがそこにとどまった場合の、より大きな嵐の可能性から彼らを守っているのです。どういう意味ですか？

ああ、彼らは群衆に食べ物を与えたばかりでした。そしてイエスは、「彼らをここから出さないといけない。」と。「なぜなら、彼らはそこに留まっていたかったから。つまり、彼らは今ヒーローであり、それが彼らをうぬぼれさせようとしている。」 「ペテロはここで、"群衆を養った"最初の教会を 始めたいと考えている。」 「そして、彼はすぐに巨大な教会を持つことになる。」 「だから私は、彼らをプライドから守るためにここから出さなければならぬ。」それが、より大きな試練です。そこでイエスは彼らを送り出し、その嵐の中へと向き直させるのです。より危険な嵐から彼らを守るために。

最終的に滅びにつながるプライドの危険から守るために。神は、私たちが道から逸れるのを助長するような状況に私たちを置くことはありません。神には、それはできません。逆に、神は常に私たちを彼への従順を助長する状況に置きます。言い換えれば、あなたは試練や、危険な嵐の真ただ中にもいるかもしれません。たぶん、あなたは今日ここにいて、あなたはその嵐の一つの中にもいるかもしれません。そして、それがあなたを揺さぶっています。あなたはこんな嵐に言うかもしれません。「主よ...なぜあなたはこれを許されるのですか？」そして主がこう言っているようなものです。「それはただ、あなたを守るためだ。」この嵐は、より大きな嵐からあなたを守るためです。パウロがテサロニケに戻ることを許可されていたとしたらどうでしょうか？何が起こったんだろうかと思うのです。最後にパウロを町から追い出したユダヤ人はまだそこにいると思いますか？ええ、彼らがそこにいると思っていた方が良いでしょう。ここで、私が自問しなければならないことがもう一つあります。神がサタンにテサロニケへ戻ることを妨げることを許可しなかったとしましょう。そして、テサロニケ人へ書かれた2通の手紙を、私たちが見ることがあったでしょうか？私はそうは思いません。言い換えれば、神は2通の手紙によって、より大きな善をもたらしたのです。パウロはテサロニケへ戻る代わりに手紙を書きました。それが、彼がこの手紙を書いて送った理由です。「私は行きたかったけど、行けなかった。だから私は手紙を書いている。」言い換えれば、彼が行っていたら、私たちに第一テサロニケ人への手紙は無かったでしょう。祈りで閉じて家に帰りましょう。いいえ、まず預言アップデートをしてから、それから家に帰りましょう。いいえ、それから聖餐式があって、それから家に帰りましょう。私たちが第一テサロニケ人への手紙を見る事はないのです。第二テサロニケ人への手紙もありません。

ああ、ところで、第一テサロニケ人への手紙は、使徒パウロが書いた、一番最初の手紙でした。彼が聖霊に促されて書いた、聖書の中で最初の手紙は、第一テサロニケ人への手紙です。もし神が、サタンが彼の道を妨げることを許さなかったら、私たちにこの書はなかったのです。私の聖書に、第一・第二テサロニケ人への手紙がないことなんて想像することすらできません。

なぜだかを知りたいですか？皆さん、なぜだか知っていますね。なぜなら、これから私達が見ていくように、それはすべて教会の携挙と主の帰還に関することだからです。これがまさに、パウロがこれから話すことです。そうする上で、この3番目の理由が与えられています。私に言わせれば、最後のものは一番いいものです。なぜ神は、サタンが神の民である私たちを攻撃することを許されるのですか？なぜなら、それは主が戻ってこられることへの切望を生み出す効果があるからです。

19節と20節は興味深いものです。それはパウロがこう言っているようです。「サタンは私があなた達のところに行くのを妨げたかもしれない。」 「しかし、それはただ、主が私たちのために来てくださることを、さらに待ち望むようにさせる。」 真実ですよ？正直になりましょう。皆さんは教会にいます。私たちは正直にならなければなりませんね？私たちが自分に正直であるなら、私たちが認めなければならないのは、この地で、物事がうまくいかないとき、それが、私たちが主に来て欲しいと求める時なのです。そして、物事がここで非常にうまくいっているときは？それほど求めません。

さあ、正直になりましょう。そうですね？逆境がきて、あなたが試練の中にいる時、あなたはこのように、「主よ、すぐに来てください！」物事がうまくいっていたら？それは悪いことではありません。楽しんで！

**伝道者の書7:14**には「**順境の日には、幸いを味わい**」と書かれています。主をほめたたえましょう。楽しんで方が良いですよ。だって、試練が来るのですから。そして、彼は言います、「しかし、逆境の日には...」「もし万が一」「万が一逆境が起こったとしたら...」と書かれていたらと願いますが、いいえ、「逆境の日には」と書かれています。神が、サタンがパウロにしたように、サタンがあなたを苦しめることを許されたとき...あなたの人生におけるその肉のとげが何であったとしても。そして、あなたは祈ります。「神様！なぜあなたは、サタンが私の肉のとげで私を苦しめることを許しているのですか？」そして、あなたはこう祈るのです。「これを取り除いて！そこから抜け出せて！」そして神は「それはできない。そうしたいが...」「しかし、あなたが気付いていないことは、もし私がそうすれば、あなた自身を危険にさらすことになる。」「なぜなら、私がこれを続けさせることによって、」「それは、あなたの内に、私だけへの完全な信頼と、完全な依存を造り出しているのだから。」「もし、私がそれを取り除いたら、どうなるか？」覚えていてください。この14年前に、パウロは天国へ引き上げられたのです。もし神が私を連れて行って、待ち受けている栄光を見せるとしたら、それが私をうぬぼれさせないと思うのですか？私が皆さんに言えるのは、私だったら今、本を書いていますよ。私が見たものについて世界中で話しています。パウロは違いました。なぜか？なぜなら、神は彼が謙虚であり続けるために、肉体にこのとげを与えたからです。「パウロ、私がこのとげを取り除けば...」それが何であれ、私は、神は理由があって、その総称的な言い方に留めたのだと信じています。そうすれば、私たちの人生にある神に取り除いてほしいと求めるようなとげが何であれ、その空白を埋めることができるからです。

「なぜあなたは、サタンがこのような苦痛を私に与え続けることをさせるのですか？」「このように私を攻撃させるのですか？」その理由は次のとおりです。

「それは、あなたが私に頼り続け、あなたが私を見つめ、私を待ち望み続けるためだ。」

「もし私がサタンに許可を与えなかったら、あなたはどこにいるだろうか？」

「あなたの人生はどんなだろうか？」「あなたはどこへ行くだろうか？」

パウロが彼らに言うことが最も興味深いと思います。これで終わっていきます。パウロは彼らに、そして彼らについて、彼らは彼の望みであり、彼らは彼の喜びであり、彼らは彼の冠であり、主が来られるときに喜ぶと言っているのです。重要なのはそれだけなのです。結局のところ、これは主の終盤戦なのです。最終的にすべてがイエスの帰還を指し示しているのです。そして、私たちが困難、苦悩、苦しみ、迫害を経験しているとき、それは、私たちに主の帰りを切望させるのです。それが理由です。だから、私たちがさまよい、迷いこんでいると、神は、「彼らの注意を引こう」と言われ、「サタン、どうぞやりなさい。しかし、ここまでだけだ。」「よし！彼らの注目を得られた。今、わたしは彼らを正しい道へと導こう。」「そして、わたしは彼らを正しい道に留まらせなければならない。」「わたしは彼らの道を守らなければならない。」「わたしは彼らの道を守らなければならない。」

「そして、彼らが正しい道を進み、今は彼らの注意を引けたので、」「わたしは彼らに、その注意をわたしとわたしが戻ってくることに向けてほしい。」

イザヤはこのように言っています。もう終わります。これが最後の締めになります。

「心があなたにとどまっている者は幸いです。」祈りましょう。

お父様、感謝します。主よ、私の心の重荷は、今日この礼拝に参加されている人で、困難の中で、本当に苦しんで、本当に苦悩している人です。そして、敵は本当に彼らを攻撃しています。主よ、今日、これが彼らへの励ましになることを祈ります。あなたは目的と計画があって、それを許されました。

それは彼らのためであり、あなたの栄光のためです。イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージby JD Farag

牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記hukuinn7